

○議長（中村 敦君） 次は、質問順位 3 番。1 つ、下田市地域公共交通計画における路線バスの計画の進捗状況。2 つ、残薬（節薬）バッグ運動の取り組みについて。3 つ、公園整備に係る下田市の取り組みと今後の整備方針について。

以上 3 件について、11 番 鈴木 孝君。

〔11 番 鈴木 孝君登壇〕

○11 番（鈴木 孝君） 公明の鈴木 孝でございます。議長の通告に従い、順次、質問をいたします。

まず最初に、下田市地域公共交通計画における路線バスの計画の進捗状況について、伺います。

近年、自家用車の普及、人口減などの理由で、公共交通事業がビジネスとして成り立ちにくくなり、民間の公共交通事業者だけでは、社会的に必要なサービスが供給されない状況が発生しております。

下田市では、公共交通機関を社会資本と捉え、維持していくために、市民、来訪者にとって使いやすい、使いたくなる公共交通の実現を目指し、地域公共交通に係る総合的な計画である下田市地域公共交通基本計画を平成 27 年 6 月に策定し、令和 4 年度までを計画期間として進めてきました。

そして、下田市における公共交通のこれまでの取組の検証及び課題等を整理し、地域で育てる持続可能な公共サービスの実現を目指すために、新たに下田市地域公共交通計画を策定して、令和 5 年度から令和 9 年度までを計画期間として、計画を進めているところであります。

これまで公共交通計画の取組で、バス停周辺の案内については、新しい路線案内看板や、QR コードでの情報発信などにより、情報案内が分かりやすく改善され、運賃の支払い方法も、交通系 IC カードの導入により、キャッシュレス決済が既に導入され、利用者が路線バスを使いやすい状況になっていると感じます。

さらに、下田市地域公共交通計画には、令和 8 年度に新庁舎移転の予定があることを踏まえ、市の中心部における主要な拠点としての下田市新庁舎、伊豆急下田駅、下田メディカルセンター、道の駅開国下田みなとを結んだ路線を公共交通のネットワークで結び、育て、強化することを目指すことが計画に入っています。

この計画により、例えば須崎、白浜地区から路線バスに乗り、下田駅を經由して下田メディカルセンターや、その先の南伊豆方面へ行く経路、朝日地区や田牛地区から、下田メディ

カルセンター、下田駅を經由して新庁舎に行く経路での運行が実施されると期待されます。

ここで質問をいたします。

1つ目は、令和6年度の市役所庁舎一部移転に合わせ、下田市の各地区から新庁舎への路線バスの運行経路の検討がどのようにされているのかを伺います。

2つ目は、自主運行バスである、いなみん号から路線バスへのスムーズな乗換え、または市役所までの乗換えなしの運行が必要と思いますが、検討はされているのかを伺います。

3つ目は、令和5年3月12日に、路線バスの運賃無料デーを設け、路線バスの利用促進を呼びかけましたが、利用状況はどのようなものであったかを伺います。

次に、残薬（節薬）バッグ運動について伺います。

薬の飲み忘れや自己判断での服用中断、または複数の医療機関から同じ薬を処方されての飲み残しによる余った薬を「残薬」といい、社会的な問題となっております。

残薬が引き起こす問題として、処方された薬をきちんと服用しないため、症状が改善されず、医師から追加の薬や、さらに強い薬が処方されるという悪循環を招く。変質した古い薬の服用による健康被害や、薬のまとめ飲みによる副作用など、健康に悪い影響を及ぼす。各家庭に存在する残薬は、日本全体で年間数百億円分にのぼると言われ、多額の医療費が無駄になっている、などが挙げられます。

自治体が薬剤師会等と連携し、患者に薬専用のバッグを配布し、専用バッグに薬を保管し、服用してもらい、飲み残した薬や、使い切れない外用薬（湿布など）の残薬をバッグに入れたまま、かかりつけの薬局に持っていくことで、適切な服薬管理をし、残薬が引き起こす問題を解決する運動が、全国で進められつつあります。

この運動は、残薬バッグ運動、節薬バッグ運動、またはブラウンバッグ運動とも呼ばれ、災害時に、お薬手帳と薬をまとめてバッグに入れて持ち出すことができることから、残薬の社会的問題解決に加え、災害時のスムーズな避難行動の助けになるなどの利点も伝えられております。

この運動を、政策として下田市でも進めるべきではと思いますが、いかがでしょうか。

下田市の現状、進めるための課題等を伺いたいと思います。

次に、公園整備に係る下田市の取組と、今後の整備方針について伺います。

昨年度、まどが浜海遊公園や敷根公園に、児童用複合遊具が設置され、多くの子供たちがこの遊具を利用し、楽しんでいる様子が見られます。この設置にあたっては、ワークショップ等を通し、市民からの要望、意見を集約して、整備が進められた経緯があります。

この公園整備に向け実施したワークショップ等の中で、市民の皆さんから、公園整備についていろいろな意見が出されたと認識していますが、これらの意見に対する進捗状況を確認するとともに、今後の公園整備に対する方針を確認したいと思います。

まず、1つ目は、昨年度設置した、まどが浜海遊公園と敷根公園の複合遊具について、設置後の市民の評価はいかがだったでしょうか。また、要望があれば、さらに遊具を増やすなど、利用者の声を取り入れていく考えはありますでしょうか。

2つ目は、白浜地区、稲梓地区、朝日地区などでは、憩いの場や子育ての場、あるいは観光活性の場として、各地区に公園整備を望む声が聞かれます。

今後の公園整備について、どのように計画しているかをお聞きします。

また、今年度、緑の基本計画策定業務を実施していますが、緑の基本計画と公園整備はどのように関連するものなのかをお聞きいたします。

以上で、趣旨質問を終わります。

○議長（中村 敦君） 当局の答弁を求めます。

市長。

○市長（松木正一郎君） 鈴木議員からのただいまの3点の質問のうち、公園整備に係る下田市の取組と今後の方針について、私から御答弁申し上げます。

静岡県当局の統計によりますと、下田市の公園の総面積は約43ヘクタール、人口1人当たりの面積は、20平米程度となります。これは、国土交通省の定める設置基準、1人当たり10平米、この程度は確保するようになっているのですが、その2倍となっています。

しかしながら、それは下田公園や敷根公園など、多くが緑地である。そういった公園が、その数字を稼いでいるところであって、これらを除きますと、実際の、実質的な意味での子供たちの遊び場、あるいは市民の皆さんの憩いの場となる空間の面積は限定されておりまして、現在、公園が十分あるとは、とても言えないと私のほうは認識しております。

こうした中で、昨年度、鈴木議員の御提案とか、あるいは子育て世代の市民グループの署名等々によりまして、まどが浜海遊公園の複合遊具設置要望がありまして、関係の各機関と、その後、調整協議を重ねた結果、まどが浜海遊公園と敷根公園に、それぞれ複合遊具を設置することができました。

予算の主なものを、コロナ交付金を充てております。コロナ交付金で、外でステイホームといわれて、なかなか子供たちがそういう場所がないといった中での活用ということで、好事例というふうに考えております。

これらの公園では、議員御指摘のとおり、天気の良い日には、親子で遊ぶ姿が多々見られておりまして、改めて暮らしの中で公園の存在意義、あるいは今後の整備の重要性を再認識したところでございます。

今、公園の配置を市全域において見直して、そういう全体計画を立てようということで、緑の基本計画と呼ばれるものの策定に取り組んでいるところでございます。

その他詳細については、各課長からお答え申し上げます。

以上でございます。

○議長（中村 敦君） 建設課長。

○建設課長（平井孝一君） 私のほうからは、公共交通に関することと、公園に関する取組についての詳細をお伝えします。

まず、庁舎へ行くための路線バスの検討についてでございますが、庁舎への路線バスは、現在、公共交通事業者、鉄道、バス、タクシー会社とともに、令和8年度の庁舎完全移転に向けた公共交通による市内各地からのアクセス方法について、調整を図っているところでございます。

令和6年度の一部移転時は、市民の窓口機能についてが現庁舎に残ることから、各地から新庁舎への路線の新規設定などの予定はございませんが、下田駅における路線バスのスムーズな乗り継ぎについて、事業者とダイヤ調整を図っていきたいと考えております。

令和8年度の完全移転後の新庁舎へのアクセスについては、まず前段として、現在の市役所利用者に対して、アンケートを実施し、移動方法や、来庁時間の時間分布などの分析を行い、新庁舎への各地からの直通便の可能性も含め、検討していきたいと考えております。

また、いなみん号については、令和6年度を目標に、A I オンデマンドでの運行を、新庁舎へのアクセスも含め、まずは実証実験を行い、実用化の可能性を検討していきたいと考えております。

今後こういった新しい技術も含め、市民の利便性向上となるような公共交通ネットワークを検討していきたいと考えております。

次に、運賃無料デーの利用状況についてですが、運賃無料デーにつきましては、通常の3倍程度の利用がございました。実施後のアンケート結果では、日常的にバスを利用している方が半分程度、その一方の半分の方は、バスを利用していない方であり、利用者の二極化が生じていることが分かりました。

今後は、この半年以上バスを利用していないという方々が、例えば夜、飲みに行く日の朝

はバスで通勤し、帰りはタクシーを利用してもらうなど、公共交通の促進につながるような取組を、交通関係機関と連携を図り、検討していきたいと考えております。

次に、公園整備に係ることでございます。まどが浜海遊公園につきましては、管理を委託している振興公社からの報告によりますと、遊具設置後、まどが浜の利用者は増加しているとの報告を受けております。

また、敷根公園の遊具については、公園の利用者への聞き取りで、子供たちの遊んでいる姿が見られており、おおむね好評と認識しております。

遊具設置から1年程度経過した後、遊具利用者の意見を伺うなど、自己評価を行う予定でございます。

遊具の増設については、自己評価を踏まえ、検討していきたいと考えておりますが、まどが浜海遊公園においては、県管理の港湾区域のため、下田土木事務所との協議が必要となります。

また、今後の公園整備計画につきましては、議員のおっしゃるとおり、市民の憩いの場としての公園が各地にあることが望ましいと考えており、公園が稲生沢の中や、本郷の区画整理地区等に集中していることは、市全体としてバランスがとれていない状況と認識しております。

市長からも申し上げました、今年度策定を進めている緑の基本計画は、市全体の緑地の保全や、緑化の推進に関して、その将来像、目標、施策などを定める基本計画で、その中で、今後の公園整備の在り方についても検討しているところでございます。

以上です。

○議長（中村 敦君） 市民保健課長。

○市民保健課長（斎藤伸彦君） それでは、市民保健課からは、質問2番、残薬（節薬）バッグ運動の取組についてをお答えいたします。

残薬バッグ運動につきましては、下田市市民保健課におきましては、取組の実践はございませんでした。賀茂と下田、それぞれの薬剤師の代表の方に確認したところ、四、五年前にそのような運動があり、残薬を回収する袋を配布する薬局もあったとのことでした。現在は、回収のための袋を配布することではなく、服薬について、患者様とコミュニケーションを重ねることにより、きちんと飲まれているか、薬は飲みにくいかなどの聞き取りを行い、対応を行っているとの情報を聞き取りました。

患者の残薬管理につきましては、重複投薬、相互作用防止加算のうちの残薬調整として、

調剤報酬点数に加算される場合もあるとのことでした。

なお、市民保健課におきましては、在宅で生活する高齢者を訪問する機会があるため、高齢者に服用服薬の管理を助言、介護サービス等の居宅療養管理指導とのサービスに結びつけるということで、今後の対応を強化していきたいと考えております。

以上です。

○議長（中村 敦君） 11番 鈴木 孝君。

○11番（鈴木 孝君） ありがとうございます。

まず、下田市地域公共交通計画における路線バスの計画の進捗状況について、再質問をさせていただきます。

いなみん号については、A I のオンデマンドを活用した実証実験もするというのですが、今、喫緊の問題としては、高齢者の方が稲梓地区から、新庁舎や下田の駅に行くときの乗り継ぎがうまくいかないということで、割と不便を感じているということですが、A I の実証実験ももちろん進めるべきなんですが、特に稲梓地区でバスを利用するとすると、どちらかというと高齢者の方が多いということで、まず、いなみん号からのダイヤ調整か、それか直通で下田駅なり、新庁舎に行くということが大切なんですが、その辺は、早い時期に進める必要があると思うんですが、それについて、どのような検討がされているかを伺います。

そして、もう1つですけれども、1日無料デーというものの検証がされたということですが、1日だけ無料デーということに関して、それが有効なのかどうかというところが疑問にありまして。例えば、半額券を配って1年間利用できるとか、そういうことが必要なのかもしれません、同じお金を使うのであれば、何かそういうような、1日だけじゃなくて、半額割引券みたいな検討がされているのかを伺います。

そしてもう一つ、これはコロナ禍でバスの終わる時間が早まっているんですけれども、コロナ禍が、コロナが5類になったということで、この先、今の現状では時間が早まったままだと思うんですが、これがコロナ禍前に戻すような検討がされているのか。

以上の3点について、伺います。

○議長（中村 敦君） 建設課長。

○建設課長（平井孝一君） まず、いなみん号のアクセス、乗り継ぎについてでございますが、こちらについては、毎年度、そういった時間調整を路線バスと、回線と時間ダイヤ調整に合わせて行い、今後もそういったことを検討していきたいと考えております。

また、乗り継ぎに関しては、停留所が、整備が乏しく、待ってる時間が一層長く感じる、

そういった感覚もございます。

今後の課題でございますが、そういったところをゆったりと待っていただけるスペース、空間ができれば、ちょっと満足感も向上していくのかなと、そういったところも含めて考えていきたいと思っております。

無料実施デーにつきましては、今後の課題として、まずは申し上げたとおり、その2極間をどう他の交通機関とつないでいくかということ、まず課題に考えておりますが、そういった半額券とか、そういった面を活用して、利用促進を促す。そういった場合に、例えば高齢者を対象にするだとか、子育て世代を対象にするとともに、利用者のニーズに沿った形で、そういった助成金を行うことがよいのか、また関係機関、関係課と調整して、有効な方法については考えていきたいと思っております。

コロナ禍において、終便時間が早まっているとのことですが、私も、例えば白浜でちょっと早まっているという話は聞いたことあるんですが、それがコロナ禍前から利用者が少なく、利用の便を減便するかどうかという議論があったのか、その中で、コロナ禍がきっかけになって減便になったのかというのを、またバス業者の方に確認して、その状況を踏まえて、今後の利用状況、ニーズが必要な場合にに応じて、交通機関と協議を進めていきたいと考えております。

○議長（中村 敦君） 11番 鈴木 孝君。

○11番（鈴木 孝君） 分かりました。

バスの終便ということなんですけれども、ほかにも、例えば下田に飲みに来たり、食事に来たときのタクシーなんかも、夜中になるとなかなかつかまりにくいという問題もありまして、利用する人が少ないから、だんだんと公共交通の方も、それに対していろいろサービスも少なくなってしまうということで、非常に難しい問題だと思います。

例えば、下田市の町の中の飲食店のことも考えても、どうにかバスやタクシーの利用ということも呼びかけて、公共交通を支えていく必要があると思いますので、また検討をよろしくお願いいたします。

この下田市地域公共交通計画は、地域で育てる、持続可能な公共サービスの実現を目指しているということなんです、この地域で育てるということに目を向けますと、僕なんかも市議会議員をやらせていただいている関係で、いつもは車に乗っているんですが、公共交通、例えばバスに乗ってみようとか、利用してどういうところが便利なのか、不便なところはどうかとか、いろいろなところに乗って検証したりはしているんですが、なかなか普通に

生活していると、バスを利用する人はいつも利用しているんですが、利用しない人は、ほとんどもう、まるで関係ないところに、公共交通というものがあるという状況だと思うんです。

ですので、そのために無料のバスやったり、いろいろな工夫をしているわけなんですけれども、なぜ一般質問でこれを取り上げたかという、その一つとして、公共交通というものが、この地域にとって非常に必要だということを認識しているためです。

関係者だけが、必要だということで一生懸命やっても、なかなか地域で育てるという、みんな育てるというふうには、なかなか問題意識が高まらないと思いますので、何か今、こういう現状なんだということとか、無料バスをやって、今、こういう結果が出て、こういうふうにしたいということ、どれだけ市民の皆さんに共有してもらえらるかっていうことが必要だと思いますので、どうにか共有してもらおうようにしていきたいと思います。

特に、下田市は観光というものが産業の中心となるんで、例えば、公共交通をなくしてしまつて、市でバスなりを運用するとなると、ちょっと違ったものになってしまつて、インバウンドなども含めて、外から鉄道などを利用して、下田市に観光、来る人にとっては、これから先の公共交通、路面バス等が非常に必要となってきますので、なくすわけにはいかないですし、むしろ発展させるべきだと、衰退させるべきじゃないと思いますので、頑張ってやっていきたいと思います。

次に、残葉バッグ運動の取組について、御答弁ありがとうございます。

この賀茂郡では、なかなか残葉バッグ運動っていうのが、広く配布等がしていないということなんですけれども、バッグがなくても、いろいろな工夫をして、残葉がないように進めているということで少し安心したんですが、できれば、このバッグを配布して運動を起こすことによって、先ほどの公共事業のこともそうなんですけれども、残葉っていう問題があるんだっていうことを認識してもらおうっていうことが、非常に大切だと思うので、残葉バッグを配布するかは別として、何かの方法で、その残葉というものを、皆さんに問題を共有していただいて、この問題を解決していけたらと思っております。

続きまして、公園の整備に関わる下田市の取組ということで、再質問をさせていただきます。

市民のいろいろな要望を聞いて、このまどが浜海遊公園及び敷根公園に遊具を設置したわけなんですけど、アンケートを取るようなことで伺ってましたが、僕の肌感覚というか、いろいろ子供と遊んだ感覚ですと、どちらかというと、まどが浜海遊公園は、非常に観光客も含めて利用者が多いと。そして、遊具があることによって、今までちょっと目が向いてなかつ

たまどが浜海遊公園が、遊具の周りに、例えばお弁当を持ってきて、座って何か食べているのか、何かそういう方や、あとは隣接する人工の浜が、磯場というところだと思うんですけども、そこで裸足になって、足につかって遊んでいる子供たち、そういう子供たちも見れて、あと、もちろん犬の散歩とかも含めて、遊具があることで、以前より非常に利用者が増えていたということで、何もなくていい景色だったんですけども、利用者がなかったのが、それをきっかけにして、非常ににぎやかさが出てきたということで、これを下田市の公園の計画として、各地区にも設置するということなんです。

問題は、設置して、利用者が少ないと、非常に寂しいものになってしまうということなんです、お金もかけることですので、この敷根公園とたまどが浜海遊公園の遊具を設置したこれを、アンケートを基に、どういう設置の仕方がいいのかということは、深く考えるべきだと思います。

楠山議員が前回の定例会で、一般質問で述べたスケートボードパークであるとか、あとは私なんかが要望いただくのは、雨の日に遊ぶところがないとか、そういうふうにしますと、例えば屋根がある遊具で遊べる公園とか、いろいろなことが考えられると思うんですけども、この公園の、市の計画と、人が喜んで遊べる計画がうまく合致してこそ、お金が無駄にならず、利用者が多いということですので、いろいろな考えがあると思いますが、その辺も含めて、この先、検討して進めていってほしいと思います。

以上です。

○議長（中村 敦君） 建設課長。

○建設課長（平井孝一君） タクシーの話がございました。実は私、先日、ある飲み屋に行ったところ、11時頃を過ぎましたら、もうタクシーがなくなっちゃうから、もう呼んだほうがいいよと言われて、私ごとというように、ちょっと危機感を感じておりますので、今後はちょっと、まだ情報不足なところはございますが、その辺をどうしていくかは検討していきたいと思っております。

それで公園についてですが、議員のおっしゃるのは、たまどが浜海遊公園が、遊具の遊びではなく、様々な二次的効果につながってにぎわいを生じているということでございます。

たまどが浜海遊公園と敷根公園におきましては、駐車場があつて、よその方からも通えるような公園ということで、いろんな地区の方が利用されていると思っております。

先ほど申しあげました利用者アンケート等によって、そのときには住んでいる地区のニーズだとか要望も聞けるかと思っておりますので、そういった意見を参考に、今後、検討していきたい

いと考えております。

すみません、話戻ってしまいますが、その無料バスデーにつきましては、議員のおっしゃるとおり、まずは、路線バスを使っていない方がほとんどではないかというところをまず捉えまして、まずバスに1回乗ってもらうというきっかけづくりをしたのが、根本的な経緯でございます。

そして、おっしゃるように、市民で育てていく公共交通というのは、逆にちょっときつい言い方を申し上げますと、市民が利用しないとなくなってしまうというような危機感も含めて、皆さんにこの公共交通というものについて考えていただきたい、という思いも込めたとところでございます。

今後とも各交通機関と連携を図り、また関係課とも連携を図り、公共交通推進に努めてまいりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

○議長（中村 敦君） 市民保健課長。

○市民保健課長（斎藤伸彦君） 残薬問題というものがあるということを、広く認知したほうがよいというような、議員の御意見でしたので、残薬問題ということにつきましては、今後、市民保健課のほうでも、課内で検討して、対応を考えていきたいと思っております。

また、先ほどバッグを配るという話があったんですが、全般的に配るのではなくて、市内の一部の薬局さんにおいては、確認が必要と判断した方については、バッグを持たせて個別に確認するという行為は、行われているとの情報を得ています。

以上です。

○議長（中村 敦君） 11番 鈴木 孝君。

○11番（鈴木 孝君） ありがとうございます。その残薬バッグにおいても、公共交通においても、このように一般質問等で取り上げることによって、少しでも皆さんに、それがいろいろな問題が伝わって、問題の改善につながればいいと思います。

公園の関係なんですけれども、稲梓地区の建設発生土を利用した活用地なども、公園をつくるのにもいいんじゃないかということもあります。やっぱり観光を含めて、外の方と地元の方と、両方を喜ぶようなことを考えないと、どうしてもこの人口が少ないところで、公園は造ったけれども寂しいものになってしまうということが、そういうおそれがありますので、何か観光の面、防災の面、いろいろなものを含めた公園整備を行っていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（中村 敦君） これをもって、11番 鈴木 孝君の一般質問を終わります。